

2006年12月期決算説明会



コスモ・バイオ株式会社

2007.2.19

www.cosmobio.co.jp

2007/2/19

JASDAQ
Listed Company 3386

目次

コスモ・バイオ株式会社
COSMO BIO CO., LTD.

1. 会社概要

2. 事業の内容

- 事業の形態
- ビジネスの特徴
- 当社が提供するサービス
- バイオ研究とは
- 商品説明
- 2006年12月期下期のトピックス

3. 2006年12月期決算の概要

- 損益計算書
- 売上高推移
- 商品分類別売上
- 商品分類別売上増減要因
- 営業利益の推移
- 経常利益の推移
- 利益率の推移
- 貸借対照表およびキャッシュフロー計算書
- 2007年度業績予想

4. 事業環境認識

- 市場動向
- 事業等のリスク

5. 今後の事業展開

6. 2007年度事業計画

- コア事業の強化
- 機器販売の強化
- 輸出の拡大
- 企業向け販売の強化
- M&A 資本提携等

2007/2/19

2

1. 会社概要

社名: コスモ・バイオ株式会社
 本社所在地: 東京都江東区東陽2丁目2-20
 代表者: 代表取締役社長 原田 正憲
 設立: 1983年8月
 資本金: 913,925 千円(連結)
 事業内容: バイオ研究用試薬、機器、臨床検査薬の販売
 従業員数: 69名 (2006年12月末)
 他パート・派遣社員: 32名(2006年1-12月平均)
 売上高: 5,936百万円 (2006年12月期)

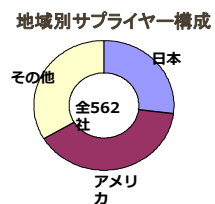
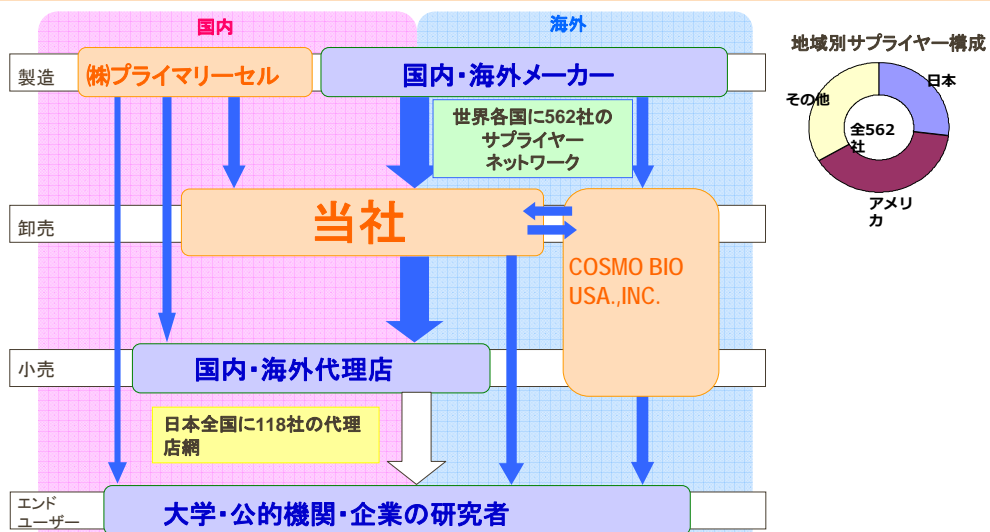


2007/2/19

3

2. 事業の内容

事業の形態「バイオ研究を支援する専門商社」

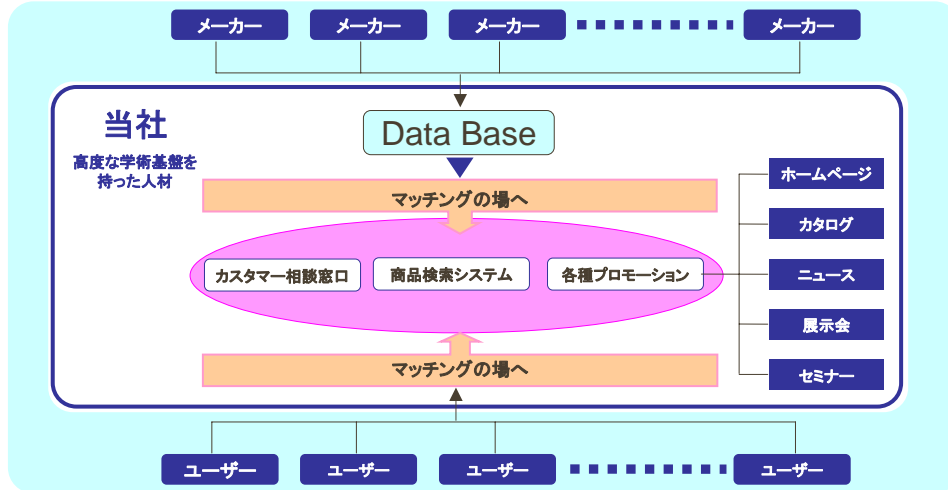


注: 数字は2006年12月末時点のものです。

2007/2/19

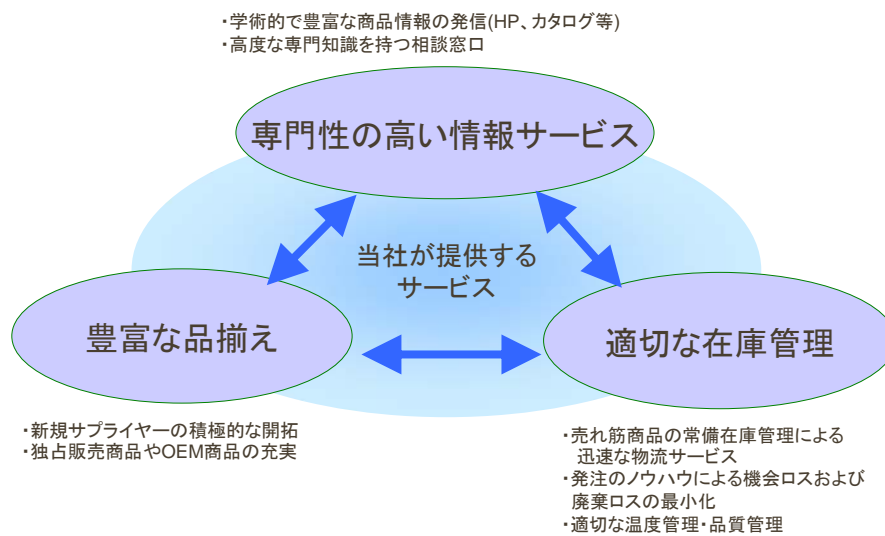
4

「膨大な商品・情報と多様なユーザーニーズのマッチング」



- ・ユーザーニーズに対応できる豊富な品揃え
- ・商品情報をデータベース化し、ユーザーが自在に検索可能
- ・各種プロモーションツールによる専門性の高いサービス・情報の提供

「当社が提供するサービス」



「バイオ研究とは」

- **ゲノム研究**
 - 生物多様性の解明と比較ゲノム解析の推進
 - ゲノム機能解析研究の推進とタンパク質構造・機能解析の推進
- **発生・再生研究**
 - 生体の発生・神経やその他器官の機能分化機構の解明
 - 幹細胞を操る技術の解明
- **脳研究**
 - 脳のシステムを明らかにする脳神経系の構築原理の解明
- **がん研究**
 - 発がんとその防御機構の解明
 - がんの治療や予防に関する研究
- **老化に関する研究**
 - 老化の分子機構の解明
 - 寿命規定因子の探索
- **植物・環境・食料研究**
 - 植物の環境応答におけるシグナル伝達機構
 - 環境ストレス耐性、耐病性のメカニズムの解明



2007/2/19

7

商品説明「代表的な商品 試薬」

- **汎用試薬(バイアル単位で販売)**
 - 抗体
 - 売上の46%を占める商品群。商品数約15万品目を取り揃える
 - その他
 - ホルモンなどの生体内物質、培地添加剤、ケミカルなど
- **応用試薬(用途に合わせて試薬等をセットにしたもの)**
 - 遺伝子
 - 遺伝子解析、タンパク質発現等の研究で用いられるキット
 - その他
 - 生体内物質や環境汚染物質の検出定量キット
 - 創薬支援受託サービス 等



2007/2/19

8

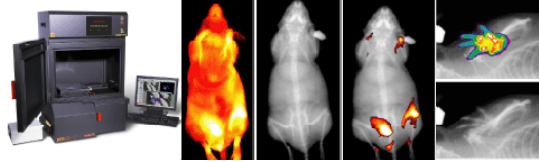
商品説明「代表的な商品 機器、臨床」

■ 機器

- バイオ研究に用いられる機器及び器材
超音波細胞破砕装置「Bioruptor」
電気泳動装置「i-MyRun」
X線イメージシステム
培養細胞観察システム
バーチャルスライド作成システムなど



細胞破砕装置
Bioruptor



X線イメージシステム



バーチャルスライド作成システム
TOCO



培養細胞観察システム
セルウォッチャー

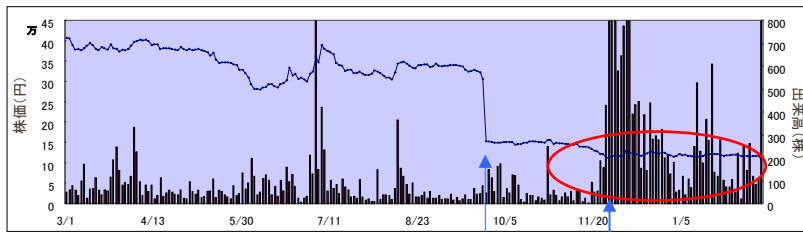
■ 臨床検査薬

- 血液凝固検査薬

「2006年下期のトピックス」

■ 株式分割 (1:2)

- 投資単位の引き下げと、流動性の向上を目的として、10月1日に株式分割を実施しました



分割実施

流動性向上効果
が見られてきた

月	出来高 (平均)
3月	90
4月	78
5月	55
6月	86
7月	132
8月	65
9月	43
10月	67
11月	189
12月	478
1月	195

■ 配当予想の変更

- 普通配当1,900円(分割前3,800円)に特別配当600円を加えて、合計2,500円(分割前5,000円)とすることを予定

「2006年下期のトピックス」

■ 12月 株式会社プライマリーセルの株式取得(子会社化)

- 当社は、12月25日株式会社プライマリーセルの株式80%(総額368百万)を取得し、子会社とした

株式会社プライマリーセル

所在地	北海道札幌市
代表者	原田 正憲
設立年月日	2004年10月15日
従業員数	13名
主な事業内容	初代培養細胞(プライマリーセル)*の製造販売 初代培養細胞等を用いた医薬品開発及び機能性食品開発の受託評価
主要な取扱商品	内臓脂肪細胞、心筋細胞、破骨細胞、肝細胞 等
資本金の額	50百万円 / 5,000株 (当社4,000株(80%) (株)セルガレージ 1,000株(20%))
特徴	株式会社プライマリーセルは、動物(ラット、マウス、ハムスター等)由来の初代培養細胞(プライマリーセル)製品調整技術レベルが高く、高品質の細胞が提供できる世界でも希少なバイオベンチャー



2007/2/19

内臓脂肪細胞

*初代培養細胞(プライマリーセル)は生体組織から分離した初代細胞そのものであり、既存の細胞製品とは異なり、生体に近似した生化学的かつ生理的な性状を有しており、その品質も、学会等で認められ評価が高い

11

「株式会社プライマリーセルの子会社化について」

■ 当社は(株)プライマリーセルの子会社化により以下のことを期待しております

- 当社はこれらの商品、受託解析サービスを販売することで、同社に不足しているプロモーション活動およびセールス活動を本格化させることにより、当社および同社とのシナジー効果による双方の収益向上が期待できる
- 当社はバイオ研究の商品の仕入・販売を主としているが、長年培われたユーザー・ニーズを基に同社の研究開発を推進し、さらに先端的・革新的な技術・商品開発を目指す。これにより当社は、細胞分野において、商品開発から販売までを一貫して行うことができる。
- メタボリック・シンドローム等への関心が高まる中、同社の細胞関連技術が様々な研究分野に貢献し、医薬品企業のみならず、食品関係企業の商品開発においても寄与することが期待される。これにより当社は、食品分野に関係する顧客へ、より広く深く関わることとなり、新たなビジネスの展開を期待している

2007/2/19

12

2006年12月期決算の概要

www.cosmobio.co.jp

2007/2/19

13

3. 2006年12月期決算概要

決算概況「損益計算書(単体)」

コスモバイオ株式会社
COSMO BIO CO., LTD.

(百万円)	06/12実績	05/12実績	増減	増減比
売上高	5,936	5,498	438	8.0%
売上原価	3,357	3,006	351	11.7%
売上総利益	2,578	2,491	87	3.5%
販管費	1,661	1,620	41	2.6%
営業利益	917	871	45	5.2%
営業外収益	6	206	▲199	▲96.7%
営業外費用	99	107	▲7	▲6.8%
経常利益	824	970	▲146	▲15.1%
特別損益	▲14	1	▲15	-
税引前当期純利益	809	972	▲162	▲16.7%
法人税等	358	396	▲38	▲9.8%
当期純利益	451	575	▲123	▲21.5%
一株当たり当期純利益	7.605円 ^{99株}	21.496円 ^{85株}	-	-

研究用試薬、機器を中心に販売促進による売上増加等

仕入増加および円安による仕入原価の増加等
(ドル年間平均¥110→¥116/ドル)

経費削減に努めたものの、人材強化による人件費の増加等

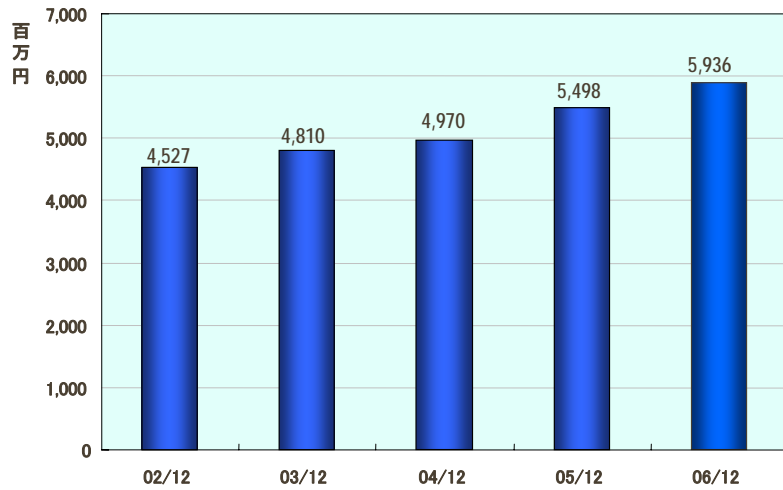
2005年には196百万円のデリバティブ評価益を計上したが、今期は14百万円デリバティブ評価損となったこと等

バイオマトリックス株式を減損処理等

2007/2/19

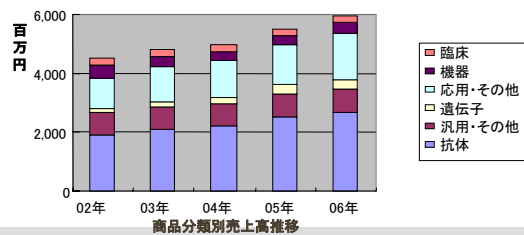
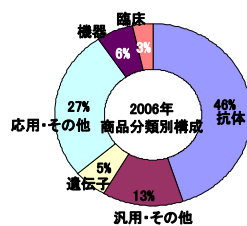
14

「売上推移」

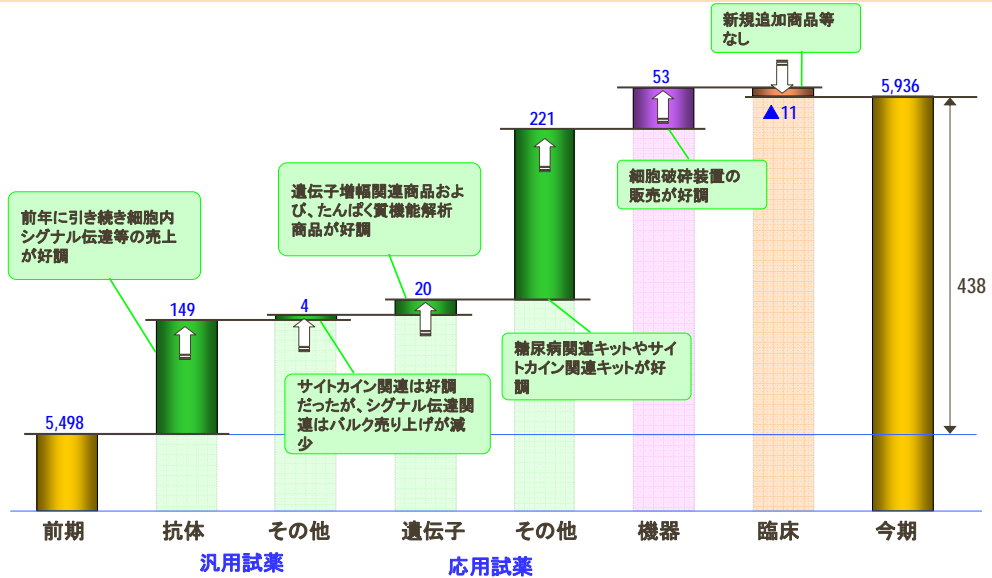


「商品分類別売上」

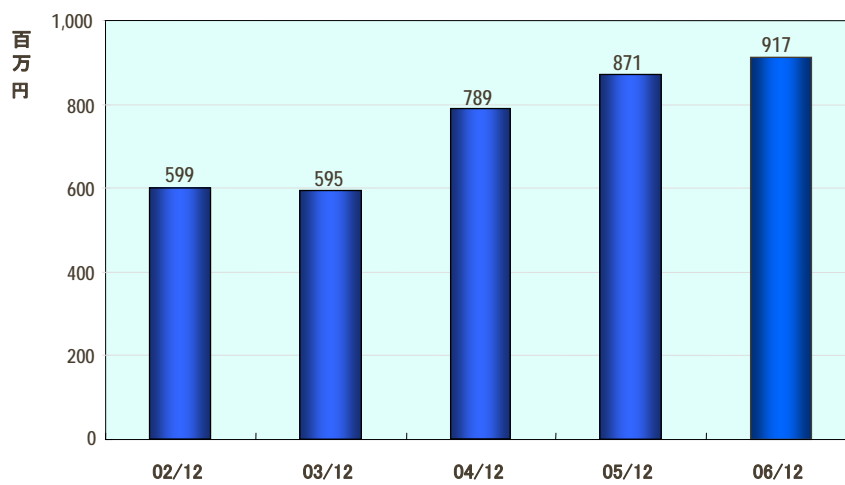
(百万円)	06/12実績	05/12実績	増減	増減率
	金額	金額		
研究用試薬	5,373	4,977	396	8.0%
汎用試薬・抗体	2,673	2,523	149	5.9%
汎用試薬・その他	796	791	4	0.6%
応用試薬・遺伝子	317	297	20	6.8%
応用試薬・その他	1,586	1,365	221	16.2%
機器	368	315	53	16.9%
臨床検査薬	194	206	▲11	▲5.5%
合計	5,936	5,498	438	8.0%



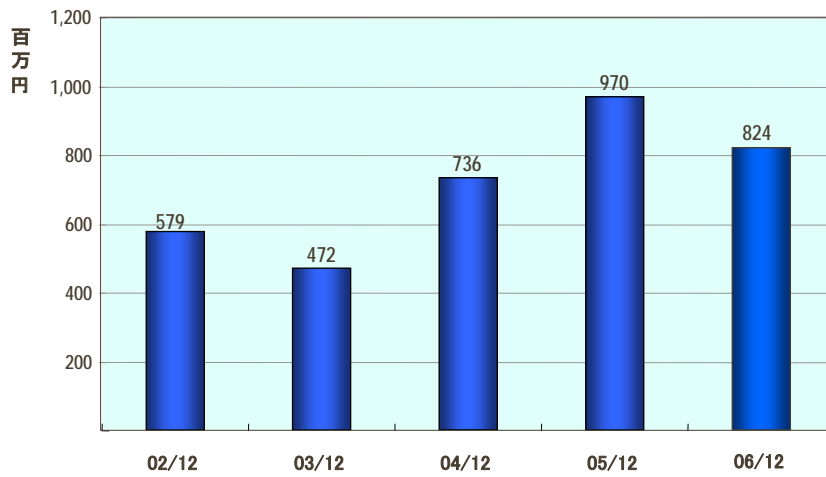
「商品分類別の売上増減要因」



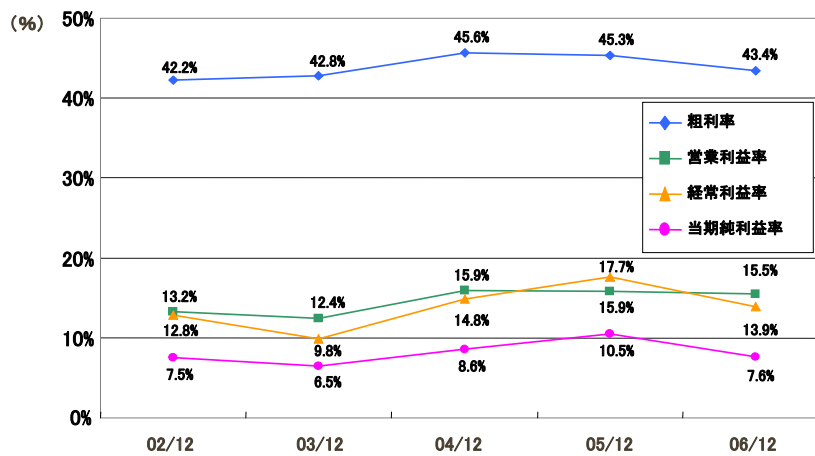
「営業利益の推移」



「経常利益の推移」



「利益率の推移」



「貸借対照表(連結)及びキャッシュフロー計算書(単体)」

貸借対照表B/S(連結)

(百万円)	06/12実績
総資産	5,267
負債合計	1,028
純資産合計	4,238

キャッシュフロー計算書(単体)

(百万円)	06/12実績
営業活動によるキャッシュフロー	157
投資活動によるキャッシュフロー	▲140
財務活動によるキャッシュフロー	▲181
現金および現金同等物の増加額	▲161
現金および現金同等物の期末残高	536

「2007年12月期業績予想」

(単体)

(百万円)	07/12予想	(07/06予想)	06/12実績	増減
売上高	6,250	3,215	5,936	313
営業利益	830	496	917	▲87
経常利益	745	452	824	▲79
当期純利益	457	268	456	0
一株当たり当期純利益(*)	7,599円 08銭	-	7,690円 23銭	-

(連結)

(百万円)	07/12予想	(07/06予想)
売上高	6,390	3,274
営業利益	808	468
経常利益	721	424
当期純利益	430	245
一株当たり当期純利益(*)	7,141円 37銭	-

・想定為替レートは115円/ドルを見込む

・当社仕入高の約1割を占めるSerologicals社が米国 Millipore社に買収されたことを受け当社仕入れは日本 ミリポア株式会社を介すること及び当社仕入高の約5%を占める英国AbCam社が日本法人を設立し当社仕入れは同日本法人を介することによる当社売上原価の増加と売上総利益率の低下を見込む

・株式会社プライマリーセルの子会社化に伴う「のれん代」の償却費が37百万円発生

・デリバティブ評価損50百万円を見込む

事業環境認識と今後の計画

www.cosmobio.co.jp

2007/2/19

23

4. 事業環境認識

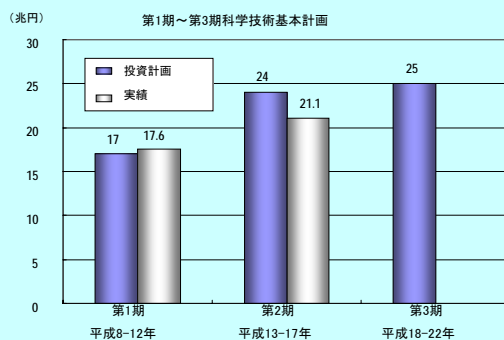
「市場動向」

- 現状の試薬の国内市場規模は800億円前後、機器は1000億円前後で、今後の市場成長率は4～5%と推計される(当社独自推計)
- 大学・研究機関の研究は、政府の後押しもあり、今後も堅調に推移する
 - 第3期科学基本計画の骨子にもあるようにライフサイエンスは引き続き重点4分野との位置づけ
 - 2007年における競争的資金は増加(4,766億円 1.4%増)

科学技術基本計画枠の研究費実績 (H17年度)

ライフサイエンス : 2兆1,333億円
 IT : 2兆5,926億円
 環境 : 8,252億円
 ナノ素材 : 6,369億円

(資料:総務省平成17年度科学技術研究調査)

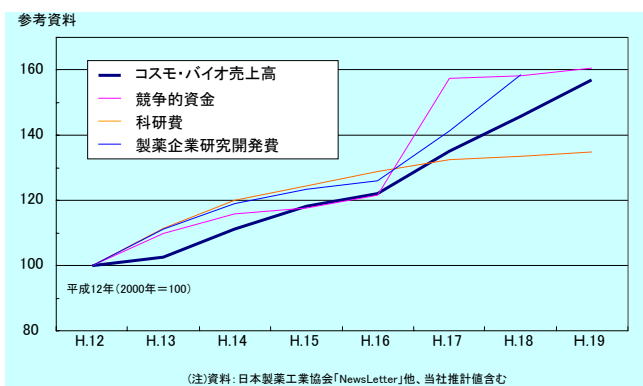


2007/2/19

24

- 企業の研究活動は、ベンチャーも含め、今後ますます拡大する

- 2006年 製薬企業研究開発費は対前年12%増(推計)。2007年も引き続き成長が見込まれる

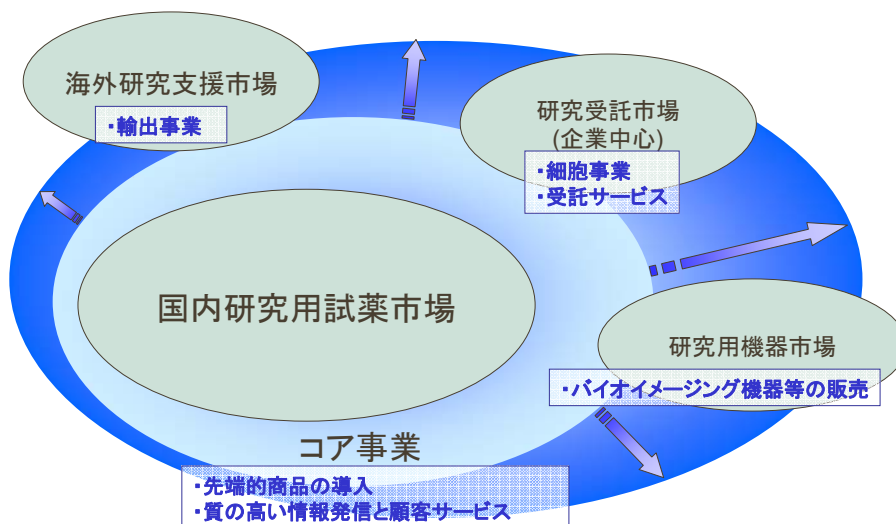


- 新たなバイオ技術の台頭が、市場を拡大する

下記の要因により売上・利益に影響を与える場合があります

- 仕入先の動向(M&A、国内販売への進出等)
 - 当社仕入高の約1割を占めるSerologicals社が米国Millipore社に買収されたことを受け当社仕入れは日本ミリポア株式会社を介することとなる
 - 当社仕入高の約5%を占める英国AbCam社が日本法人を設立し当社仕入れは同日本法人を介することとなる
- 為替の変動
 - 今期の為替レートは¥115/ドルを見込む
- 価格競争の激化
- 政府の研究予算の動向
- 法的規制強化等

5. 今後の事業展開

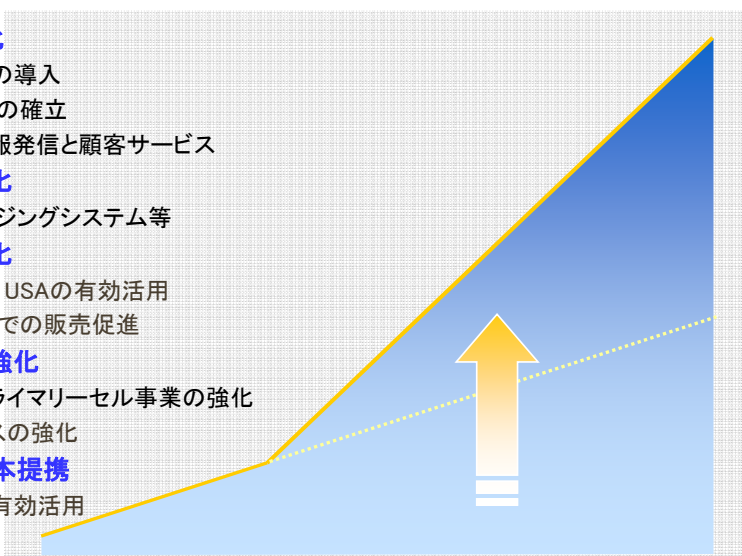


2007/2/19

27

6. 2007年事業計画

- **コア事業の強化**
 - 先端的商品の導入
 - 自社ブランドの確立
 - 質の高い情報発信と顧客サービス
- **機器販売の強化**
 - バイオイメージングシステム等
- **輸出事業の強化**
 - COSMO BIO USAの有効活用
 - 欧州、アジアでの販売促進
- **企業向販売の強化**
 - 株式会社プライマリーセル事業の強化
 - 受託サービスの強化
- **M&Aもしくは資本提携**
 - 調達資金の有効活用



2007/2/19

28

「コア事業の強化」

■ 継続して新規仕入先および、先端的商品の導入に努める

- 今後も新規仕入先開拓に注力する
- 特に重点研究領域の商品に重点を置く
- 自社ブランド(OEMを含む)商品の開発を進める

■ 顧客サービスの質を高め他との差別化をはかる

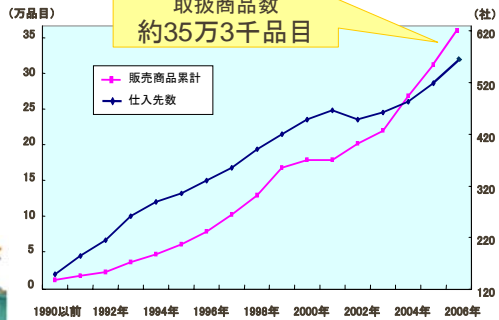
- 高度な商品情報をエンド・ユーザーがわかりやすい形で発信する。
- 学術的なセミナーや展示会等でエンド・ユーザーに直接的なプロモーションを実施する



2007/2/19

2006年実績
新規仕入先 69社
新商品 約9万6千品目

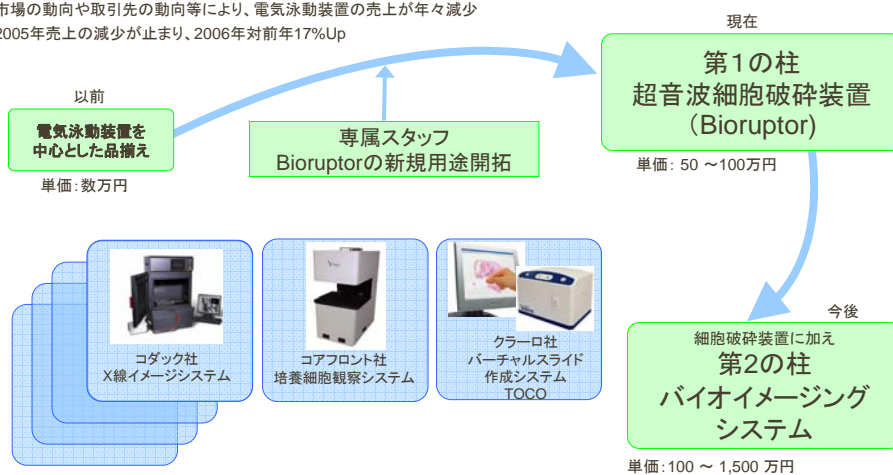
2006年12月末現在
仕入先 562社
取扱商品数
約35万3千品目



29

「機器販売の強化」

- 市場の動向や取引先の動向等により、電気泳動装置の売上が年々減少
- 2005年売上の減少が止まり、2006年対前年17%Up



*バイオイメージングシステムとは、細胞、組織、固体など生体材料を観察する際に、撮影した映像をコンピュータに取り込み、種々の必要な変換を行うことで、その変化や状況等を視覚的に捉えることを可能にするようなシステム

2007/2/19

30

「輸出の拡大」

2007年計画

- 販売促進商品のプロモーション
 - 機器: Artemis、セルウォッチャー等
 - 試薬: GenomOne等
- 海外代理店の拡充
 - 欧州(試薬)、アジア(機器・試薬)

2006年実績

- 輸出商材の拡充
 - Artemis(機器)、GenomOne(試薬)
- 海外代理店の拡充
 - 欧州4社 アジア2社 北米1社
- 組織の増強
- 北米西海岸に北米向け物流基地の設置
- 北米地域を対象としたInternet Shoppingの拡充



2007/2/19

31

「企業向け販売の強化」

■ プライマリーセル事業の強化

- 市場環境

- in vitro(試験管内実験) → in cell(実際の細胞を用いた実験) → in vivo(生体内)
より生体に近い評価系へのニーズ
- メタボリックシンドロームへの関心の高まり
 - 食品企業 - 化粧品企業
 - 製薬企業 等における内臓脂肪細胞を用いた評価

- プライマリーセルの強み

- 初代培養細胞は生体内での機能を維持した細胞で、より生体に近い。(株)プライマリーセルは動物由来の初代培養細胞を安定供給できる世界的にも希少な会社

- 2007年計画

- 販売促進体制の確立: 市場への周知(広告宣伝ツール)
- 営業体制の確立: 受託サービス等の、主に企業への提案営業
- 次なるニーズの開拓: 破骨細胞、心筋細胞等
- 新商品開発

■ 受託サービスの強化

- 既存の受託抗体作成サービス、遺伝子受託解析サービスに加え、プライマリーセル社の細胞を用いた、機能性食品等の評価試験受託サービス

2007/2/19

32

「M&A 資本提携等」

- **2006年度投資実績**
 - バイオマトリックス研究所（第3者割当増資）
 - 高い抗体作成技術を持つ
 - 将来の商品ラインナップの充実を期待
 - プライマリーセル（株式80%取得）
 - 細胞に関する高い技術
 - 受託サービス等による企業向け販売への貢献

- **2007年度**
 - 1月コアフロント（新株予約権付転換社債）
 - 再生医療関連の研究支援
 - イメージングシステムの開発
 - 今後も機会を窺い積極的に展開

ご注意

- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。